

『現代文A』学習の手引きの工夫 宮岡良成

「学びの道しるべ」にはさまざまな工夫を凝らしている。いずれも文章読解が苦手な生徒を意識した構成となっている。

1 スペースの確保

ふつうは一ページに課題をまとめているのに対し、二ページ分を確保し、全体的に余裕を持たせた。これは生徒による書き込みができることを想定している。もちろん完全な解答を書くためのスペースはない。そのため中途半端なスペースはむしろ逆効果という考え方もあるかもしれないが、生徒の学習意欲をおこさせ、少しでも前向きに学習することを期待したものである。解答に結びつく単語だけでもよいし、不完全な一文でもよい。あるいは、理解できたか、できなかったか、自分自身のための覚え書きでもよい。各自が自由にこのスペースを使えるようにしたものである。

2 スモールステップ

課題は各教材につき五〜六問を用意した。比較的やさしいもの、読解の基本となるもの、文章を読み解くきっかけとなるものを初めのほうで設定し、全体に関わるものや最終的に到達すべきもの、あるいは教室全体でいろいろ話し合うものなどを終わりのほうに設定することで、課題を順に整理していくことによってスムーズに文章読解ができるようになっていく。また「山月記」では最初に音読を設定した。文章の流

れを体で味わうことで、漢語が多用される冒頭部分で生徒が挫折することを防ぐためである。本文にルビをふり、家庭学習でも音読ができるようになっていく。

3 ヒントマーク

課題にヒントをつけた教材もある。生徒が自分で解こうとしたときに、一人で考えてもどうしてよいかわからないこともある。そこで、自分で解くときの手助けにヒントを入れることにした。キーワードや対立概念、筆者が取りあげている具体例に注目させることによって、課題の理解に結びつけることを意図している。

4 学びを広げる

「学びを広げる」は、発展学習を意図して、教材本文を理解したうえで自己や社会について考える課題である。抽象度が高い評論教材は難しいイメージが強く、文章の内容をふまえて社会を考えたり、自分の意見をまとめたりするという学習にはなかなか結びつかない。そこで、例えば「モード化する社会」では生徒たちにとって身近な「コマースシャル」に注目させ、巷にあふれている「コマースシャル」をとおして筆者が指摘する「物語」について考えさせる課題を設定している。

5 語句と漢字

「語句」と「漢字」は学習の基本である。「語句」は辞書で意味や用法を調べる習慣をつけさせたい。「漢字」は必ず覚えてほしいものをピックアップしている。文章の理解につながるのはいまでもないが、生徒が語彙を広げることに必要なので、適宜活用してほしい。